

# どろいあんぐる菅生

発行：菅生中学校区地域教育会議

編集：情報委員会

当番校：稗原小学校 TEL 976-4557

事務局：コミュニティサポートネット内

TEL 979-1303 FAX 979-1304

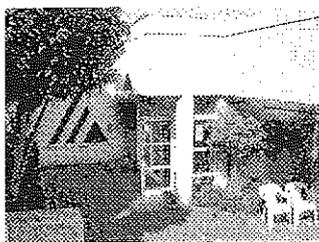
http://sugao-ky.hp.infoseek.co.jp E-mail: csn@ha.bekkoame.ne.jp

居場所を見失った子どもたちが、街に溢れるようになって久しい。地域に「子どもの居場所」をつくることの必要性を、ここ数年、行政でも意識するようになってきた。平成15年度より、こども文化センターが夜9時まで利用できるようになり、対象も幼児から大人までと広がった。子どもたちの居場所にみんなの目が届くことがねらいた。両センターの館長、次期館長に話を聞いた。

## こども文化センターへの期待

家庭でも、学校でもない、地域に子どもの居場所を！

### 蔵敷こども文化センター



利用者の層が広がっている。昼間は幼児と母親のサークルがいくつも定期利用しており、学校の保護者の会や地域のヨガ、ダンスのサークル、老人の

サークルの利用もある。大人の団体には、なるべく子どもたちの遊ぶ時間を避けて利用してもらっているため、夜間の稼働率も非常に上がっている。夜間利用できるようになったことで、中・高校生の利用も増えている。中学生は夕食時には帰っていくが、高校生ではダンスの練習場として使っている人たちもいる。また、高校生が中心になり、「こども運営委員」が組織され、他で認められるチャンスに恵まれなかった子どもも、力を発揮できる場所の一つになっている。

今後「運営協議会」(\*)では、市民活動センターとしての役割を担うべく、大人の参加できる企画を計画している。大人がこども文化センターに入り込むということは、ここで、地域の子どもと大人が顔見知りになるということ。子どもたちと知り合いになる機会が増えることで、子どもたちへの関心も深まればと思っている。親以外の人からも間違いを叱ってもらえる環境は、これから子どもたちにとってかけがえのないものになるだろう。

昼間、学校のある時間に来ている子もいる。何らかの理由で学校に行けなかった子だ。行き場を見失った子が、親子ともに安心して居られる場所にもなればと思う。(山本啓子館長)

### 菅生こども文化センター

平成18年度より、指定管理者制度により、こども文化センターの管理・運営が民間に委託できるようになった。菅生こども文化センターは川崎市で2館選ばれたうちのひとつである。

菅生に勤務したのが、30年前できたばかりの菅生こども文化センターだった。当時都内に住んでいたが、企画会議(\*\*)の中で自分だけがここの住人でないことが寂しくて、近くにアパートを借りて住民票を移してしまった。ここは、そんな不思議な魅力のある地域である。地域の人たちがみんな子どもたちを育てていこうという人情が残っている。ここでなら、理想的なこども文化センターを運営していくことができると思い、館長を引き受けた。

そんな菅生でも一時、名物のターザンロープが使用禁止になっていたことがある。危ないからという理由だ。しかし、子どもは危ないことを体験して初めて注意することを知る。小さなケガを繰り返し、大きな危険を回避する知恵を得る。蚊が出るからと、除草剤が撒かれたこともある。おかげでかくれんぼができなくなった。最近やっと草が芽を出してきたところだ。今は必ずスタッフが一緒に遊んでいる。

「家や学校ではできないことが、ここでならできる」という場所にしたい。子どもも大人も老人も、グループでも一人ででも集える場所、地域のコミュニティの中心にできればと思っている。

(針山直幸次期館長)



(\*) 運営に関して地域住民が話し合う会

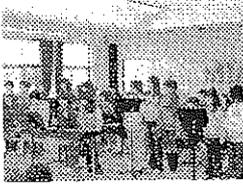
(\*\*) 当時の名称、今で言う運営協議会

子どもたちが、ここから一歩踏み出そうとするのは、それぞれいつのことだろう。ゆっくりと、しっかりと力を蓄え、外の世界に羽ばたいてゆくまで、見守ってゆける地域であり続けたい。



菅生音楽祭 2月25日(土)

# 育てよう地域の教育力 地域教育学習委員会



会場の子育て支援センターには、開演前から大勢の人がつめかけ、イスを追加するほど。

菅生小音楽部の子どもたちによる合唱・合奏でほのぼのとしたオープニングセレモニーがスタート。古川委員長の挨拶に続き、菅生中吹奏楽部による迫力のある演奏に乗って会場からは手拍子も。

きりっとかっこよくキメていたのは蔵敷太鼓連の子どもたち。大太鼓から小太鼓、笛まで子どもたちだけで構成されており、伝統がしっかり受け継がれていることがわかります。同じ地域の大人としても嬉しく思いました。

小学生を中心に、幼稚園・保育園児を含めたバレエは約30人の大所帯で出演。観客からは思わず、「かわいい!」という歓声も。幼いながらもいっしょうけんめい踊る様子に、観ている人たちの顔にも笑顔がこぼれてしまいました。➔

➔ 菅生中 PTA の OB 仲間が集まって活動している混声合唱コールエスペランサは、女性の澄んだ声と落ち着いた声のある男声のハーモニーをじっくり聴かせてくれました。民謡踊り・親栄会の方々は、手づくり、揃いのコスチュームで「キヨシのズンドコ節」を。吹奏楽部の中学生も加わって「キヨシ!」のかけ声をかけながら踊りました。会場に集うみんながひとつになって楽しい時間をもちました。

音楽祭を終えたあと、蔵敷こども文化センターに会場を移し、「災害米を食べてみよう」と、災害米で作ったおにぎりを無料で提供。「たこ公園をきれいにする会」が作った豚汁を、音楽祭に出演した小中学生たちもまじえていただきました。収益は公園をきれいにする活動資金にとのこと。

「昔遊びコーナー」では、小学生たちが、けんだま、駒まわし、羽根つきなどを楽しんでいました。

## 学校訪問 その後

生涯学習委員会

生涯学習委員会では、一昨年から菅生中学校区3校の小・中公立学校の授業参観を行い、教師の教え方、児童・生徒の授業に対する反応や学習意欲などを観察してきました。

そこには一般の授業参観日ではなかなか見えない教師や子どもたちの姿や、なるほどと思われるいろいろな興味深い発見がありました。参観して不思議に思ったり、おかしいと感じたことを質問形式でまとめ、昨年末に回答を求めたところ、1月初旬に文書で返信されました。しかし、文書では、質問の意図とずれた回答もあり、直接、担当教師と話しながらやりとりしたほうが、もっとお互いの理解を深められたのではないかと思います。

学校の常識は社会の非常識などとよくいわれます。大変すばらしい仕事をしている教師もいますが、仕事に緊張感が乏しく、勉強不足の教師が多いように感じられました。長い

間、授業は社会の目に触れられることもなく、比較されることも、公に批判されることも少ないまま担任任せにしてきた結果、学校独特の価値観を持ったともいえるのではないかと思います。公務員は国民、地域住民の委託を受けてそれに応えなければならないという原点を強く意識してもらいたいと思います。また、委託した者(地域住民)は委託した業務を責任を持ってチェックしていかなければ、決して両者間に信頼関係は築けません。

生涯学習委員会では、もう少し突っ込んだ情報や資料を基に、保護者の皆さんも入った話し合いができるシンポジウムを計画しています。

学校の授業などに関して疑問などをお感じの方は生涯学習委員会にご意見をお寄せください。

(生涯学習委員長 工藤文比古)

# めざそう!!

# このまちペリーまっち

子どもたちのまちづくり



菅生中学校区子ども会議

## 子ども会議に参加しよう!

私達は、菅生中学校区の子も会議で色々なことについて話し合っています。最近では、私達が昔、こんなまちになったらしいのって思っていることについて話し合っています。

その中のひとつ、なぜか私達は、『川で遊びたいなあ』って考えました。なので川の汚さについて調べにいったりして、遊べるようにはあるのか??とみんな考えていきました?? いつもみんな楽しく、話し合っています。が、残念なことに今、子ども会議には中2の生徒が10人くらいしかいないのです??いろいろな人の意見を聞いたりしてもっと活発に話し合いができればいいなと思っています。

なので皆さん、私達と一緒にまちについて学校についてその他いろいろなことについて話し合ってください?? 少しでも興味があれば来てください?? 優しい私達が待っています。(2年伊藤/千代)

## 子どもたちがつくるまち

川崎市の「子どもの権利条例」に基づく子ども会議は、市子ども会議、行政区子ども会議、中学校区子ども会議があり、市政や、まちづくりなどに子どもの意見表明・参加をうながしています。

菅生中学校区では、16年度から「めざそう!!このまちペリーまっち」をテーマに、子どもの視点によるまちづくり活動を進めています。子どもたちは意見をただでなく、一歩進んで自分たちで何が出来るのか模索中です。

当面は、中学生を中心とした実行委員会を進め、小学生も含めた意見の発表の場や地域で子どもたちがつながるイベントなどを企画していきます。

部活や塾などの時間との折り合いをつけながらの実行委員会。話し合う時間はひと月にわずか1時間ほどしかありませんが、子どもたちは、めざすまちづくりのために、みんなで意見を出し合い、試行錯誤しながら進めています。

学校の授業ではなく、地域教育会議や学校のサポートを受けながらの地域活動ですが、内容を決めるのも、楽しくするのも、子どもたち自身で決めていきます。

## ☆☆☆あったらいいな・こうしたいな



どんなまちにしたい?



## ☆☆☆このまちに遊び場をつくりたい!! ☆☆☆調べた・まですることをやった

みんなの考えをだしてみよう

### ○こんな公園があったらいいなあ

バスケットボールがしたいなあ・遊具がいっぱいあるといいなあ・子どもが楽しめる公園を作りたい

・・・きまりを調べてみよう・理想の公園って?

高津区にある西部公園事務所を訪れ、公園の使い方の基本的なことを聞いてきました(12月26日)。今後は、プレーパークのように自分の責任で楽しく遊べる活動を、有馬ふるさと公園で実施している「ボレボレ」の活動を見て参考にします。

### ○子どもも使えるスポーツセンターを

中学生や小学生も使いやすいスポーツセンターにしたい

・・・スポーツセンターの利用の方法を調べよう

宮前スポーツセンターは4月にオープンします。施設利用方法を調べてきました(1月10日)。→詳細は4ページ

### ○みんなて遊べる平瀬川にしよう

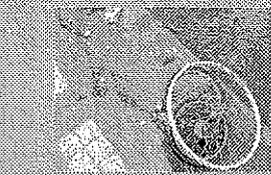
川に入って遊びたい・魚が取れたらいいなあ

・・・川の様子を調べよう・みんなてゴミを拾おう!

サトームセンの裏側の平瀬川2箇所川に捨てられたゴミを拾い集め、どんなゴミが捨てられているのか調べました(1月10日)。今後は、川をきれいにしている市民グループなどの話を聞きながら、具体的に何をやるかを考えます。



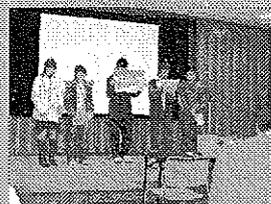
ゴミを拾う子どもたち



捨てられてあった自転車の車輪

## かわさき子ども集会にも参加(12月18日)

市全体から集まった小中学生が活動発表と意見交換をしました。菅生の子もたちも、自分たちで相談し、パネルに活動内容をまとめ、ステージでは、ワークショップの様子を寸劇で紹介するなど、おみごとでした。



写真(左) パネルによる活動紹介 (右) ステージでの発表

# 宮前スポーツセンターもうすぐオープン!

だれでも気軽にスポーツを楽しめるよ!

—— オープニングイベント開催 4月7日～30日 特別無料開放 ——

- 7日(金) 開館式典 13:00～14:30 犬蔵中学校吹奏楽部・ユニサイクル野川など
- 8日(土) 川崎フロンターレ親子フットサル教室 10:00～15:00 (小・中学生と親子 要事前申込み)  
親子ふれあいコンサート 11:00～11:45 (入場制限あり 定員 80名)
- 9日(日) NEC レッドロケッツバレーボール教室 (13:00～16:30)
- 10日～30日 「スポーツデー」・トレーニング室などを個人開放

—— 5月1日以降の利用について —— 「子ども会議」メンバーの調査より

【スポーツデー】 あらかじめ決められたメニューによりバドミントン、卓球、バスケットボール、バレーボール・ヨガ・エアロビクスなどができる。施設使用希望日の6ヶ月前から予約できる。重なった場合は抽選。午前、午後、夜間の割り振りがある。あいていれば当日借りることもOK。

○団体貸し出し: 15歳以上の責任者がいれば登録できる。顧問の先生か登録すれば部活でも使用できる。

○個人貸し出し: 学生は100円・大人は200円払えば個人で使用できる。

【健康相談室】 健康に関するアドバイスをしてくれたり、リハビリを教えてくれる。

【医務室】 応急処置をしてくれる。

【プレールーム】 小さい子どもが遊ぶことができる。

【研修室】 スポーツに関する学習をするときに使用できる。

—— 全期間通して ——

○注意事項: 用具(ラケットやボール類)・室内用運動靴は各自用意

○問合せ先: TEL 044-976-6350 FAX 044-976-6358 (4月1日より)

☆全指導員に

障害者指導資格有り

## おかえりなさいシニア世代

—— 定年を迎える団塊の世代に呼びかける ——

みやまえ区民フォーラムに参加して 3月4日(土) 宮前市民館にて開催

基調講演は大下勝巳区長、シンポジウムには、区民活動家3名と市総合企画局から1名の提案を受け、その後、5つの分科会がもたれた。地域教育会議では、第5分科会「安心安全にかかわるコミュニティ」を中心に取材した。多くの時間を地域の中で過ごしている子どもたちの安全を守り、健やかに、生きる力を育むために、家庭、学校はもちろん、地域の果たす役割は大きい。

はじめに覗いた第2分科会では、『21会宮前男のまごころの会』と『犬蔵おやじの会』の報告があった。21会の活動は障害者の介助が主で、40人のメンバーで年間延べ1400人が活動。本当にまごころなくしては続けられない内容であった。また、犬蔵おやじの会は、学級崩壊・校内暴力が世間の話題になったころ、PTA会長から「もう、母親だけにまかせてはおけない。隣の子どもを叱れるおやじになろう」と言われ創設された。子どもを連れてキャンプなど野外行事を多く取り入れ、すごいおやじの姿も見せながらやっているという。どちらの報告も感動的であった。

本題の第5分科会では、暮らしの根本ともいえる安心安全を確保するのは、地域でともに助け合う組織作りが必要だとして、そこにシニアの力が発揮されている2つのグループの活動報告がされた。一つは土橋町内会で、シニアが無理なくできる防犯パトロールとして始めたが、今では首から下げるカードもそろい、町内会・交通部・青少年育成会・民生委員・少女ソフトの保護者等17団体が参加している。会合の行き帰り・広報誌の配布・散歩時にパトロールをしている。

次はワンワンクラブ。こちらにもシンボルカードを装着して、パトカーが入れない場所や時間帯なども愛犬と一緒にパトロールする。マナー講習会や環境美化にも力を入れている。

最後に行政区地域教育会議から、川西議長が報告に

立った。子どもを育てるのは地域。子どもの生きる力をしっかりと育てていきたい。そのためにもシニア世代にお願いしたいこととして、「長く生きたからこそ分かる若い世代への助言」、「良いことと思ってもできない今の若い世代に、先鞭を切って行動するカッコ良さを示してほしい」などが出された。討論の中からは、シニア世代の地域デビューの禁止3か条として、「政治の話はしない。宗教の話はしない。自分の財布の話はしない」などの発言もあり、ちょっと笑いながらも示唆にとんだ内容であった。

第5分科会のまとめとしては、散歩をし、まちしらべをし、おかしな場所がないか見て回る。ひとりから始まって、何人かが集まれば、それがパトロールになる。あいさつをすることを心がける。事件は場所でおきる。危険な場所をなくしていくことが大事。

菅生地区でも、十分に当てはまる有意義な分科会であった。

### 第2回川崎市地域教育会議交流会開催!

2月26日(日)、高津市民館で、川崎市全体の地域教育会議交流会が開かれました。参加したのは行政区・中学校区合わせて16会議。ステージ発表、展示発表ともに活動の紹介がありました。新たな意気込みを感じた一日でした。

